2025 年度
第 45 号

# 体育市民連帯
# ニュースレター

大韓民国スポーツの

根本的変化を

皆さんと共に

作って行きたいです

体育市民連帯と共に

していただけますか？

1

これ全てあなたのため
コーチの地獄のような
性暴力
13 年後に被害者の刃に

2

舒川障害者
体育指導者たち
職場内いじめ申告をして
失職危機

3

大韓山岳連盟
AR クライミングで
学校体育の活性化
約 4 千人が参加

4

李大統領
IOC 委員長接見
大韓民国体育に
支援をお願い

5

みんな勉強
しなきゃいけないのに
どうして体力テスト？
体育を押しのける民願の力

ソウル市 瑞草区 瑞草洞 孝寧路 230 スンジョンビル 407 号　TEL 02-2279-8999

체육시민연대

体育市民連帯 ニュースレター 2025 年 第 45 号 2025.12.18

## 01 ハンギョレ 2025.12.01

## 「これ全てあなたのため」コーチの地獄のような性暴力… 13 年後に被害者の刃となる

「それでも、これは違う！」

李ヨンマンコーチが叫んだ。 凶器が頬骨の部位を切りながら破裂した鮮血が唇を通ってあごの先に流れた。 大声を聞いてロッカールームから飛び出した選手たちがソ·ユンジ（30、仮名）の両腕をつかんだ。 顔が血だらけのユンジは、凶器を握った手に力を入れながら低い声で話した。 「私がそんなこと言わないよ」

まもなく警察が来て、ユンジは 2025 年 9 月 16 日、ソウル蘆原区泰陵国際スケート場で昔のコーチに凶器で刺傷を負わせた疑惑で現行犯逮捕された。

ユンジはこの日、スケート場の廊下で友人の A さんと会話を交わしている途中、ロッカールームから出てくる李コーチを偶然目撃した。 「合ってるよね？李ヨンマンだよね？」という言葉を投げたユンジは、A 氏の返事が終わる前に走り始めた。 2023 年 2 月、護身用に購入した凶器で李コーチの頭を殴った。 選手たちに両腕をつかまれた時はもう手遅れだった。 「事が起こった」ユンジは内心思った。 13 年が経って「忘れた」と思った痛みが体を反射的に動かした。

娘の苦しみを知らなすぎた父の嘆き

「それを今さら言ってどうするんだ！」 ハンドルを握った父親のソ·ジンソク（仮名）の手がぶるぶる震えた。 2014 年 5 月 25 日、檀国大学天安キャンパスに向かうカーニバルの中で娘のユンジが酒の勢いを借りて話した。 「お父さん、その時私がなぜ家出したか分かる?」という言葉で始まった娘の告白は、1 年前に受けた性暴力と暴行に対するものだった。 ユンジは、李コーチに「高校 2 年生の時から数回にわたって性的暴力と暴行を受けた」と話し、涙声で話した。

「もしかして妊娠しなかったの?」充血した目で正面を凝視していたジンソクがかろうじて口を開いた。

「妊娠はしていない。でも生理がない時があったんだけど、その時は別に呼ばれてお腹を集中的に叩かれたの。 肋骨にひびが入って運動もできなかった」 ジンソクは耳が熱くなり、体が震えた。 「とりあえず精神科から行こう。 学校は通いたくなければ通わなくてもいい」 スピードスケートの国家代表になるために進学した檀国大学だったが、ここも李コーチと一緒に練習するところだった。 ジンソクは、「娘のことをあまりにも知らなかった」と心の中で嘆いた。 太極マークをつけた娘の姿を想像しながら耐えてきた 4 年の歳月が崩れた。

「体格がいいね！ スケートやってみる？」ユンジは 15 歳の時の 2010 年、家族と一緒に京畿道高陽市のあるスケート場に遊びに行き、選手の勧誘を受けた。 2 年前までは校内陸上選手として活躍したユンジは、同年代に比べて体格が良かった。 娘の運動神経が格別だという事実を知っていたジンソクは「よく滑る」という周辺の評価に娘にスケート靴を履かせた。 そして 1 年ぶりにスピードスケート競技場のあるソウルに引っ越した。

ユンジは 11 年 12 月、李コーチに初めて会った。 ユンジの両親が檀国大学監督を通じて李コーチを紹介してもらった。 一時、国家代表だった李コーチは当時、泰陵国際スケート場を借りて、多くの選手を指導していた。 近くは大学進学、遠くは五輪出場が目標だったユンジは、寝る時間を除いた日常の全てを李コーチと一緒に過ごした。 外国合宿訓練と遠征試合まで毎日が忙しく回った。 ユンジはコーチの一言、指示一つを逃さないようにした。

過酷な行為が明るみに出ないと強度が激しくなり

2012 年 10 月、日本転地訓練で李コーチが初めて鉄棒を手にした。 練習に集中しないという理由だった。 腹ばいになってみんなで殴られた。 李コーチはその後、ユンジだけを泰陵スケート場のロッカールームについたシャワー室に呼び始めた。 挨拶をしないから、表情がよくないから、気分がいいとか良くないからなど、いろいろな理由で死なない程度に殴られた。 彼は後ろ回し蹴りで、手と足で、物を握ってサンドバッグのようにユンジを殴った。 殴られて気絶すると踏んで起こした。

「これが全部あなたのためだよ。 あなた、檀国大学に行かないと。 私を信じてるよね？ 私のことが好きならここにキスして。」

毎日暗いシャワー室で夢中になって殴られ、ひざまずいたまま李コーチの頬に唇を当てなければならなかった。 李コーチは理由もなく殴っても、たまに優しい笑みでユンジに食べ物を渡した。 とりとめのない彼の行動を推察しようとするユンジの努力は必死だった。 もはやトレーニングは重要ではなかった。 スケート場に到着し、李コーチのその日の表情と気持ちをうかがうのがユンジにとって最も重要な日課だった。

2013 年 1 月 8 日、李コーチは 18 歳になったユンジを家に呼んだ。 居間に置かれたテレビを見る弟子をじっと見守った彼は、突然ユンジの頭を握りしめながらキスを試みた。 「あなたももうほとんど成人だし、経験するだろうからこうしてもいい。 私が気持ちよくさせてあげる。 私の言うことをよく聞いてこそ、あなたも良い道に進む」と李コーチは全身で拒否するユンジの服を強制的に脱がせた後、翌日未明まで性的暴行を加えた。 この時を基点に 2014 年 2 月までユンジはモーテルで、他の弟子の家で、カナダ転地訓練合宿所で、他のコーチの自炊部屋で性的暴行を受けた。 抵抗すれば平手打ちを食らった。

多くの苛酷行為が外部に現れないので、強度はより一層激しくなった。 李コーチは随時、ユンジの携帯電話を奪ってメッセージを確認し、叩く時は電源を切っておいた。 連絡が取れなかったり、メッセージに「♥」の表示を付けないと、シャワー室に連れて行かれた。 ある日、指導者の間で李コーチとユンジが恋人関係だという噂が流れた。 これを聞いた李コーチは、「私がなぜあなたと付き合うのか」と叫びながら拳を振り回した。 「私、この人が好きなの？」こうでも信じなければ死にそうだった。 ユンジは彼が笑えと言えば笑える人になった。

父の前で跪いて急変した加害者

「これまでどれほど大変だったか。 もっと早く言うべきだった。 こんなに手のほどこしようのない状況まで来させた。 お父さんが本当にバカだった」 2014 年 5 月 25 日、ユンジが告白した時、ジンソクはため息を吐きながらむかむかする胸をつかんだ。 慰めよりは状況把握が先だった。 娘にこれまであったことを詳しく聞き、娘を寮に降ろした後、檀国大監督に連絡した。 監督は話を聞いた後、「申し訳ない」という言葉とともに李コーチとの出会いを取り持つと約束した。

2 日後、李コーチは学校前のあるカフェで両手を床についてひざまずいたまま、頭を下げていた。 ″いつから暴行と性的暴行をし、妊娠が懸念された時に足で殴ったのかを書いてサインしてください″ ジンソク

は一枚の紙を差し出した。 微動だにしない李コーチにジンソクは再び話した。 嫌なら呼んでもらった通りに書いて、印鑑証明書と住民登録謄本を取って持ってきてください
また、2日が過ぎて行われた2度目の出会いで、李コーチは補償の話を切り出した。
「必要でしたら補償を･･･「(李ヨンマン)
「どんな補償をどうするつもり？ いくらくれるの？ 5億くれるの？」(ソ･ジンソク)
補償を取り上げる李コーチに腹が立って言った言葉だった。 ジンソクは2014年8月1日、大韓体育会人権委員会に事件を申告し、2015年2月に李コーチを暴行･性暴行･誣告の疑いで告訴した。 李コーチは体育会で永久除名されると、ジンソクが2回目の出会いで補償問題を挙論したとし、恐喝未遂容疑で告訴した。
2016年6月、議政府地検は李コーチの暴行疑惑については罰金300万ウォン略式起訴を、誣告と性暴行疑惑は「証拠不十分」で不起訴した。 検察は2013年初め、ユンジが李コーチに送った「私も愛しています」 「グッドナイト♥♥」などのメッセージ、「付き合っている間」という周辺人の陳述などを不起訴根拠に挙げた。 1年間、捜査機関に呼ばれ、泣きながら供述したすべてが無駄になった。 ユンジの手を握って一緒に龍山電子商店街のフォレンジック(デジタル証拠抽出)業者を歩き回ったが、削除されたメッセージを復旧できなかった。
暴行だけを略式起訴した検察･･･ せん妄に不眠の夜
ユンジはタバコとお酒に依存し始めた。 酒と薬がなければ眠ることができず、拒食症に苦しんだ。 せん妄で夜も眠れなかったし、李コーチを殺す夢を見た。
「どうしてこんなふうに生きているんだ！ 国で法律でこのように判決が出たのだから、これからはお前の人生を正しく生きなければならない。 パパが手伝ってあげるから、これから前を向いて生きよう！」
ジンソクは娘を何度もせきたてた。 このような状況で、李コーチは不起訴決定書を根拠に、ユンジとジンソクを再び誣告の疑いで告訴した。 体育会と大韓スケート競技連盟にも民事訴訟を起こし、永久除名処分を資格停止3年に減らした。
2016年8月18日、ジンソクは応急室に横になっている娘と向き合った。 モーテルに部屋を取って多量の睡眠薬を酒と一緒に飲んだという。 女一人でモーテルに来た状況を不審に思った主人が一歩遅れてドアを開けて救助された。 横になっている娘を見てジンソクは「もし起きなければ李コーチを殺す」と決心した。 集中治療室に運ばれた娘は、3日後に目を覚ました。 精神科では「重症度憂鬱エピソード」の診断を下し、睡眠薬、神経安定剤、躁うつ病薬などを処方した。
ユンジが選手生活の真っ最中だった時、大会の度に家族全員がダウンを着て寒い競技場の中の観客席を守った。 「おい、今回はスタートが少し遅れた」と言って笑って小言を言うジンソクに恩返ししなければならなかった。 ユンジは、「体調が悪くて練習ができない日にもスケート場には行った。 「後で我が社のロゴも身に付けて一度走ってみよう!」起亜自動車の職員だったジンソクの期待に背を向けることはできなかった。 20歳まで我慢すればいいと信じていた。
生を終えようと何度も自害しても
ユンジは望んでいた大学に進学したが、暴行と性暴行で汚れた体と心に亀裂が入った。 訓練が終わると、大人の腕ほどの赤い蓋のついたペットボトルの焼酎を飲む時間が多くなった。 お酒を飲まないと、寝ながらもコーチに殴られる夢を見た。 ストレスを理由に高校生の時から飲んでいた神経安定剤の服用量を次第に増やしていった。

ジンソクが李コーチとカフェで会って話をしていた頃、檀国大学監督に連絡が来て会った。 「一度だけ見逃してくれないか」ユンジは続く言葉をこれ以上聞かずに席を立った。 真実を話せば、守ってくれるという信頼が一つ二つ壊れた。 家の中が訴訟戦にまきこまれた後には、学校に「付き合って別れると恨みを抱いて引き抜こうとしている」という噂まで流れた。
大学1年生の1学期の単位が4.0ほど（優秀）で学校に愛着があったが、指導教授との面談で「李コーチと付き合ったことがなかったか」という話を聞いた後、学校を辞めた。 その後、警察と検察に順に呼ばれ、被害状況を供述した。 言った言葉を絶えず繰り返さなければならない状況が続き、ストレスがひどくなり、一度に飲む錠剤が15個まで増えた。 スポーツ選手時代、口にもしなかったタバコにも手を出した。 暴行容疑だけが認められ略式起訴された李コーチは、これに従わず正式裁判を請求した。 ユンジは2016年8月18日、睡眠薬を多量服用した後、集中治療室に入院したため、最後の証人尋問に参加できなかった。
人生を終えようとする試みは一度で終わらなかった。 このすべての試みが無為に戻ると、凶器やはさみで自害も繰り返した。 ジンソクは随時訪問し、ユンジの状態を確認した。 ユンジは血を流しながらも「パパ、私はこれが痛くない」と自然に言った。 ジンソクは以前のように叫ばなかった。 ユンジは膨らんだ傷跡を隠すため、体のあちこちに入れ墨をした。
「あなた、体に何をしているんだ。 適当に描け」(ジンソク)
「他の人たちは痛いと言うが、私は痛みがない。 だからそのままやるんだ」(ユンジ)
恐怖に耐えぬいて訪れたスケート場で
すべての司法手続きが終わると、残ったのは家族だけだった。 ユンジは運動と大学を辞めた。 訓練だけで満たしていた学生時代を除いたら、友人たちは一握りにもならなかった。 それさえも一部は最後まで李コーチの肩を持った。 携帯電話の番号を頻繁に変えながら連絡を絶った。 長時間服用した薬はもう体が受け取れなかった。 1日に何度も心がはためいた。 突然「今日死ななければならない」と思っても「私がよく生きれば良い、これ見よがしによく生きなければならない」と誓った。
ユンジは生き残ろうと仕事に没頭した。 デパートのフードコートで休みなく働き、貯めたお金でピラティス講習所を開いて運営したりもした。 胸の中のしこりをほぐすために始めたボクシングにも本気だった。 アマチュア大会に出てこぶしを振った。 週末にも母親が運営する食堂の仕事を手伝ったり、家の近くのレストランでアルバイトをした。 食べ物でストレスを解消した。 満腹感を感じられず、食べ物を食べて吐くことを繰り返した。 苦労して稼いだお金は旅行に使った。 ドライブが好きで、車に乗ってホカンス（ホテルで楽しむ休暇）に出かけたり、キャンプに出かけたりした。 一人で他地を回る回数が多くなり、護身用凶器を買った。
自分の面倒を見るのに使う時間が増え「この程度になれば全て忘れた」と安心する時もあった。 無計画に車を運転して風に当たり、選手時代が懐かしくなるとスケート場を訪れたりもした。 一緒に運動したお姉さんとお兄さんたちが相変らずスケート場を守っていたが、別に連絡はしなかった。 ただ「一番大変だった時期も今は向き合うことができなければならない」という気持ちがあった。 恐怖を乗り越えなければならない時期が来た」と判断した。 2025年9月16日夕方、廊下を通り過ぎる時に友人のA氏と会った。
「ユンジ、どうしたの？ コーヒー飲む？ ここにカフェができた。 一緒に飲もう」(Kさん)
「いや、暑いからちょっと立ち寄っただけだよ」(ユンジ)

ぎこちない笑みで挨拶を交わした瞬間、廊下の端のロッカールームから李コーチがドアを開けて出てきた。
「あなた本当に行って刺したの？」（ジンソク）
「泰陵に行ったら、突然李ヨンマンが現れて、思わずナイフを振り回してしまった」（ユンジ）
「あなたどうしてそんなに大変なことをしたの？ どうしてそこに行ったの？」（ジンソク）
「知らない、ちょっと風に当たりに行っただけ。 私はここの病院なんだけど、出たい」（ユンジ）
ジンソクは、娘が李コーチを殺したのではないかと心配した。 頭と顔に大きな刺傷を負った李コーチは手術を受けた。 現行犯で逮捕されたユンジは警察署で取り調べを受けた後、精神病院に緊急移送された。
ジンソクは娘が初めて性暴力被害を告白した 2014 年にも、事件が発生した 2025 年にも娘を知らなく、あまりに知らなかった。
コーチ「検察･裁判所ですでに終わったこと」
2025 年 11 月 9 日、警察はすべての容疑を認めたユンジを特殊傷害容疑で検察に送検した。 「被疑者がこのような状況に置かれるようになったのは、単に個人的な脆弱性のためではありません。 体育界の位階的構造、性暴力被害に対する社会的認識不足、そして法理的限界という構造的要因が複合的に作用した結果です」 弁護人はこうして意見書を締めくくった。
これに対して李コーチはこのように釈明した。 「検察と裁判所で判断を受け、すべて終わった事案だ。 検察で（性的暴行の容疑を）不起訴にした理由は、（恋人同士という）証拠があるからだ。 （ソ･ユンジ側の主張に反する）言葉と内容が捜査記録にすべて残っている。 ソ氏側は 13 年前から同じ一方的な主張を繰り返している。 ずっと前にすべてのことが終わり、暴行にともなう罰金刑を受けて十分に苦労して暮らした。 そのレッテル（性的暴行加害者）のために苦しい生活をした。 2016 年を最後にソ氏に会ったことがなく、話も聞いたことがない。 連絡を取り交わしたこともない。 現在、今回の事件の被害者として顔の手術と精神科の診療を受けた。 ソ氏は凶器を持って準備して私を殺そうとした。 10 年も前に結果が出たことが今になって再び取り上げられて大変だ」

2025 年 8 月 28 日午前、ソウル中区の国家人権委員会の前で、体育市民連帯、文化連帯、スポーツ人権研究所などの活動家たちが、「鉄人 3 種、未成年選手の性暴力および不法撮影疑惑の隠蔽および縮小疑惑」の記者会見を行っている。

出典：https://h21.hani.co.kr/arti/society/society_general/58438.html

## 02　TJB　2025.12.01

## 舒川障害者体育指導者たち「職場内いじめ申告をして失職危機」

舒川郡の障害者体育指導者たちが失職の危機に置かれました。
舒川郡障害者体育会所属の障害者生活体育指導者 5 人は今日(1 日)舒川郡庁前で記者会見を行い「職場内いじめとパワハラ疑惑を申告し失職危機に置かれた」と主張しました。

彼らは障害者体育会幹部などが「女性の年齢30代半ばであれば価値が大きく落ちる」と言うなどセクハラ的発言と1年単位再契約評価での不利益を暗示する圧迫性発言などをしたとし、10月に雇用労働部とスポーツ倫理センターに申告しました。
2022年6月から仕事をしてきたというチェ･ハナ首席指導者は「毎年再契約過程で『契約期間満了』通知を受けたことが全くないが、今回指導者全員が通知を受けた」とし、「職場内いじめなど申告に対する報復と考えざるを得ない」と話しました。
指導者たちはそれと共に「障害者体育会職員たちの勤務態度が不誠実で退職金未支給なども繰り返された」として舒川郡の監査を要請しました。
これに対して舒川郡の関係者は「現在、指導者に対する障害者体育会自体の勤務成績評価が進行中で、再契約の可否は評価結果を土台に人事委員会を通じて決定されるだろう」とし「指導者の憂慮のように不利な人事委の決定が出れば公正性を確保できるよう外部の人物まで参加させ、評価結果を再検証する計画」と話しています。
続けて「職場内いじめなど申告と関連しては指導者全員の同意を得て支援した外部労務士が調査結果を最近雇用労働部に提出したと理解している」と付け加えました。
体育会職員らの勤務態度など監査要求に対しては「郡で調査する計画」とし「人事措置や改善しなければならない部分があればそれに合わせて措置する」と話しました。
出典：https://www.tjb.co.kr/real-time-news/category/view/id/89645/version/1

## 03　連合ニュース　2025.12.1
## 大韓山岳連盟、ARクライミングで学校体育の活性化･･･約4千人が参加

大韓山岳連盟(会長チョ･ジャジン)が小学生の目線に合わせたAR(拡張現実)クライミング（訳注：ARボルダリング）を通じて、学校体育の活性化とスポーツクライミングの底辺拡大に努めている。
大韓山岳連盟は3日「文化体育観光部と国民体育振興公団の支援を受け『2025幼少年スポーツ基盤構築事業』を展開している」とし、「ARクライミングを活用して学校体育参加拡大、学生体力向上、スポーツクライミング底辺拡大に積極的に乗り出している」と明らかにした。
今回の事業はAR基盤のスポーツクライミングプログラムを学校内で安全に学べるように構成、今まで全国20ヶ初等学校で4千人余りの学生が参加した。
幼少年身体発達段階を考慮したオーダーメード型プログラムで体育活動参加率を高める一方、ゲーム型コンテンツを活用して学生たちの筋力･柔軟性･瞬発力･心肺持久力など基礎体力を向上させ、スポーツクライミングを簡単で楽しく経験できるというのが連盟の説明だ。
特に運動量データ基盤のオーダーメード型体力向上コンテンツを開発し、学生個人別運動量を測定･分析して不足した体力要素を補完、学校体力評価(PAPS)と連係した個別訓練プログラムも提供する。
山岳連盟は参加学生を対象に圏域別大会も開く。
20の小学校を対象に5日まで予選を行った後、上位8校が参加するオンライン本選大会を12日に行う。
出典：https://www.yna.co.kr/view/AKR20251203032900007

## 04　2025.12.1

## 李大統領、IOC 委員長接見･･･「大韓民国体育に支援をお願い」

李在明大統領は 3 日、ソウル龍山の大統領室で、国際オリンピック委員会（IOC）のカスティ･コヴェントリー委員長と接見した。今年 3 月に選出されたコヴェントリー委員長は前日午後、釜山 BEXCO で開かれた 2025 世界ドーピング防止機構(WADA)総会に出席するために韓国を訪れた。

李大統領は接見で「今後、長い間 IOC を導いてくださるが、世界体育の発展はもちろん、大韓民国体育の発展に対しても多くの関心と支援をお願いする」と述べた。

さらにジンバブエ出身のオリンピック水泳金メダリストであるコヴェントリー委員長が IOC 史上初の女性委員長、初のアフリカ大陸出身委員長という点などを念頭に置いたように「委員長の偉大な人生の歴程も応援する」と徳談を述べた。

これに対しコヴェントリー委員長は「韓国に対する良い思い出が多い」とし「2018 年平昌冬季五輪の時に訪韓した。 天気は寒かったが、非常に成功したオリンピックだったと記憶している」と答えた。

それと共に「私たちが国際スポーツ界のために、また韓国のために協力する機会が非常に多いだろう」とし、交流拡大を誓った。

同日の接見には、崔フィヨン文化体育観光部長官や柳承敏、大韓体育会長らも同席した。

出典：https://www.yna.co.kr/view/AKR20251203162800001

## 05　江原日報　2025.12.2

## 「みんな勉強しなきゃいけないのに、どうして体力テスト？」
## 体育を押しのける民願の力

青少年身体活動不足警告にもかかわらず、一線学校は保護者の苦情に正常な体育活動運営が難しいと訴えている。

昨年教育部が発表した「教育活動侵害実態調査」によれば、教師たちが経験した教育活動侵害類型の中で「不当な嘆願･圧力」が 28.1%で最も高かった。

侵害事案の中では特定科目の時間縮小要求が最も大きかった。 原州のある中学校の体育教師は「試験期間になれば『長距離走をなぜするのか』、『子供が疲れて塾に行けない』という抗議が入ってくる」とし、「生徒を動かせれば動かすほど苦情はさらに激しくなる」と話した。

江原道教育庁が 2023 年道内の教師 6314 人を対象に実施した「教権保護および教育活動現況調査」の結果も似ていた。 この調査で回答者の 62.7%が体育･芸術･遂行評価運営過程で苦情を受けた経験があると答えた。 「出席負担」、「疲れの訴え」、「負傷憂慮」、「学業阻害」等が主な理由であった。 結局、一部の学校は試験期間には体育の授業を理論活動に変えたり、運動場の活用を制限している。

専門家らは、このような雰囲気が青少年の身体活動の機会を侵害していると指摘した。 また、体育に対する苦情の増加を青少年の健康を脅かす構造的問題として見なければならないと強調する。

江原大学体育教育科のチェ·チャンファン教授は「青少年の身体活動不足は個人の選択ではなく、教育·環境·社会的認識が共に作った構造的結果」とし、「体育が学業の妨害物ではなく健康の基盤という共感を社会的に確立しなければならない」と話した。

出典：https://m.kwnews.co.kr/page/view/2025120115360870134

# 体育市民連帯オンライン　定期後援案内

万人が楽しむスポーツ世界、体育市民連帯が共に作ります。
私達連帯の活動に積極的に賛同していただくことを願います。

**私たち体育市民連帯は体育人の権益保護と**
**福祉実現のために努力しています。**
**皆さんの小さな心づかいがより良い世界のための**
**体育市民連帯活動に強固な土台となります。**
**体育市民連帯会員として力になろうと**
**される方は下の口座に後援お願いします。**

**国民銀行　086601-04-095940**

**口座名義：体育市民連帯**

**オンライン定期後援は下のリンクを通じてホームページからできます。**

**多くの関心をお願いします。**

体育市民連帯　ソウル市 瑞草区 瑞草洞 孝寧路 230 スンジョンビル 407 号
Tel：02-2279-8999、E-mail：sports-cm@hanmail.net　ホームページ：　http://www.sportscm.org/
日本語訳：佐藤好行　新日本スポーツ連盟　国際活動局　韓国担当　jr1fep@gmail.com
週刊ニュースレターバックナンバー（資料室）　http://www.yg.jpn.org/sportscm/index.html